

令和2年度（令和元年度分）
教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検
及び評価報告書

西之表市教育委員会

目 次

(1) 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の概要について	1
(2) 令和2年度（令和元年度実施事業）点検評価について	2-11
・ 修学旅行費助成事業（総務課）	2
・ 学校施設長寿命化計画策定事業（総務課）	4
・ 教育用コンピューター導入事業（学校教育課）	6
・ 高齢者学級開設事業（社会教育課）	8
・ ふるさと歴史散歩看板整備事業（社会教育課）	10

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 26 条の規定に基づき、教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価を実施することとなっております。また、同条 2 項の規定に基づき、点検及び評価の際には、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとなっております。

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第二十六条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

○点検及び評価の流れ

対象事業の選定

行政評価の仕組みにおける裁量性の高い事業から教育委員会において選定



自己評価

選定された事業の自己点検評価シートを作成



外部評価

西之表市教育委員会外部評価委員会において意見聴取



教育委員による評価

定例教育委員会において意見聴取



教育委員と外部評価委員からの意見を集約し、教育委員及び外部評価委員へ報告承認



議会へ提出



公表

外部評価委員

内田 節生	行政経験者
塩崎 義政	校区長
下田 眞澄	元校長
春田 沙代子	PTA 役員

自己点検評価シート

事務事業名	修学旅行費助成事業(小学校)		担当課	総務課
事業概要	対象	市内小学校の修学旅行対象児童の属する世帯(高度へき地学校に就学する児童の世帯及び要保護・準要保護児童世帯は除く)		
	手段	交付申請を受け、学校長を通じて補助金の交付を行う。(単年度繰り返し)		
	意図	経済的負担の軽減につながる。公平な義務教育の享受につながる。		
令和元年度 事業内容	補助金交付人数 ・榕城小学校 79名 ・上西小学校 3名 ・下西小学校 8名 ・住吉小学校 5名			
事業費	令和元年度決算額	1,615千円	令和2年度予算額	1,547千円
評価指標			目標値	実績値
	負担軽減につながった世帯割合(%)		100	100
				達成率
取組内容	市内小学校の修学旅行対象児童の属する世帯(高度へき地学校に就学する児童の世帯及び要保護・準要保護児童世帯は除く)に対し、1人当たり17,000円の補助を実施。			
成果	対象者の経済的負担軽減につながった。高度へき地学校や、要保護・準要保護児童世帯に対する扶助費と同額の補助を行い、公平な義務教育の享受につながった。			
課題	事務に遺漏のないように実施する。			
今後の方向性	西之表市補助金等交付規則に基づき適正に処理する。計画通り修学旅行が実施できることを望む。			
評価 ○…妥当、適切 △…一部見直しが必要 ×…全面的な見直しが必要	妥当性	<input type="radio"/> 現状の課題の解決手段になっているか		
		<input type="radio"/> 市が行うべき仕事か		
		<input type="radio"/> 正しい成果認識による成果の把握ができていないか		
	有効性	<input type="radio"/> 成果の向上余地はあるか		
		<input type="radio"/> 類似の事業が他にないか		
		<input type="radio"/> 市民や事業所との役割分担は適切に認識されているか		
	効率性	<input type="radio"/> 成果を落とさずに事業費を削減する方法はないか		
		<input type="radio"/> 業務のやり方を工夫して業務時間を削減できないか		
公平性	<input type="radio"/> 同じ条件をもった市民や団体が公平に扱われているか			
	<input type="radio"/> 受益者負担は適正に設定されているか			
総合評価 (欄外参照)	A	西之表市補助金等交付規則に基づき適正に処理に努め、支給事務において問題は生じていない。		

- 総合評価について
- A 計画どおりに事業が進展している。または、事業内容が概ね適切な事業。
 - B 課題があり、事業の進め方や事業費等に一部見直しが必要な事業。
 - C 課題が多く、事業内容や事業規模、実施主体の見直しが必要な事業。
 - D 事業の統合・休廃止を検討する事業。または、課題が多く、抜本的な見直しが必要な事業。

意見・要望等

<p>外部評価委員の意見</p>	<p>(問) 高度へき地学校の児童の補助金も17,000円ぐらいなのか。 →(答) 全て17,000円である。 (問) 今後の方向性というところに計画どおり修学旅行が実施できることを望む。と書いてあるが現在の実施状況を教えてほしい。 →(答) 今年度はまだ実施しておらず、下西小学校と榕城小学校が実施の計画が上がってきている。</p>
<p>教育委員の意見</p>	<p>(問) 4校は実施して残りは実施しなかったということか。 →(答) 伊関、安納、現和、安城、古田は、小・高度へき地修学旅行費で事業をしているので、ここには出てこない。 (問) 一人当たりの補助額は17,000円ということだが、その積算基礎と学校によっては級地も違うが全て同額か。 →(答) 修学旅行の経費が約35,000円ほどかかり、その2分の1程度(交通費・宿泊費分)で、全て同額の17,000円を補助している。 (問) 島内の中種子・南種子の補助額は調べたことはないか。 →(答) 確認してお知らせします。 (問) 要保護・準要保護児童世帯は、修学旅行費は別にもらうのか。金額は同じくらいか。 →(答) 支出は別だが金額は同じ。 (問) 修学旅行費は県の補助もあるか。 →(答) 高度へき地修学旅行費の分がある。 (問) 助成があっても参加しないという人がいるのか。 →(答) 聞いたことがない。 (問) コロナで修学旅行が県内になった場合、経費が少なくてすむが、経費に対する2分の1という考え方でいいのか。 →(答) 定額17000円である。 (問) この事業はいつから始まったのか。 →(答) 平成25年度から始まった。</p>

自己点検評価シート

事務事業名	学校施設長寿命化計画策定事業			担当課	総務課
事業概要	対象	市内小・中学校			
	手段	計画策定内容の検討→入札・契約審査委員会→指名通知→入札→業者決定→業者との協議			
	意図	長寿命化計画を策定することにより計画的な施設の改修を行うことができる。			
令和元年度事業内容	学校施設長寿命化計画策定業務委託				
事業費	令和元年度決算額	10,890千円	令和2年度予算額	0千円	
評価指標			目標値	実績値	達成率
	計画策定に係る予算(千円)		10,890	10,890	100%
	適正な予算執行管理ができた割合(%)		100	100	100%
取組内容	コンサル業者と密に連携し、実効性のある計画の作成に努めた。				
成果	施設の実態に応じた長寿命化計画を作成した。				
課題	特になし。				
今後の方向性	2019年度で事業完了。				
評価 ○…妥当、適切 △…一部見直しが必要 ×…全面的な見直しが必要	妥当性	<input type="radio"/> 現状の課題の解決手段になっているか			
		<input type="radio"/> 市が行うべき仕事か			
		<input type="radio"/> 正しい成果認識による成果の把握ができていますか			
	有効性	<input type="radio"/> 成果の向上余地はあるか			
		<input type="radio"/> 類似の事業が他にないか			
		<input type="radio"/> 市民や事業所との役割分担は適切に認識されているか			
	効率性	<input type="radio"/> 成果を落とさずに事業費を削減する方法はないか			
		<input type="radio"/> 業務のやり方を工夫して業務時間を削減できないか			
公平性	<input type="radio"/> 同じ条件をもった市民や団体が公平に扱われているか				
	<input type="radio"/> 受益者負担は適正に設定されているか				
総合評価 (欄外参照)	A	今後の改修計画に重要な計画策定であり評価している。			

総合評価について

- A 計画どおりに事業が進展している。または、事業内容が概ね適切な事業。
- B 課題があり、事業の進め方や事業費等に一部見直しが必要な事業。
- C 課題が多く、事業内容や事業規模、実施主体の見直しが必要な事業。
- D 事業の統合・休止を検討する事業。または、課題が多く、抜本的な見直しが必要な事業。

意見・要望等

外部評価委員の意見	<p>(問) 成果に施設の実態に応じた長寿命化計画を作成した。とあるが施設の実態の具体例を教えてください。</p> <p>→(答) 各校舎・体育館が対象になっているが、その老朽化の把握をした。保全優先度を決定して、学校ごとに何年度にどの校舎を長寿命化改修をしていくという計画を策定したところである。具体的には、一番最初に改修が必要な所が安城小学校の一部の校舎と種子島中学校の校舎の一部、国上小学校の校舎、伊関小学校の屋内運動場(体育館)、立山小学校体育館等がその次の優先度として改修計画が必要という結果が出た。</p> <p>(問) 学校施設長寿命化というのは、今使われている学校の長寿命化を促進することか。</p> <p>→(答) 今現在の施設をいかに長く使っていけるかという所の改修をしていくという形になっている。</p>
教育委員の意見	<p>(問) この事業は定期的に予算に組み込まれていくのか。</p> <p>→(答) この長寿命化計画の計画期間は令和2年度から令和11年度までの10年間としている。10年後には見直す。</p> <p>(問) この事業をしないと補助を受けられないのか。</p> <p>→(答) この計画を策定している市町村でなければ、国の補助金が下りない。</p> <p>(問) 立山小を利用するのか、しないのか。施設の中でも立山は新築した方が良くはないか。それらをどのように計画改修に移していくのか。</p> <p>→(答) 学校として使えるかどうか。再度開校できる見込みがあるか。できなければ移管して教育財産でなくなる。</p> <p>(問) 立山小の体育館はどんな利用をしているか。</p> <p>→(答) ほとんど使っておらず、選挙時に使用している。グラウンドは、地域のグラウンド・ゴルフで年に1～2回利用している。</p> <p>(問) この調査で安城小の建物の危険箇所が見つかったのではないか。</p> <p>→(答) 校舎の一部が構造的に危ないところがあった。今は、解体が終わって基礎を打っている状態である。年内完了を目指して取り組んでいる。</p> <p>(問) 国としては、この計画をもとに何年度位を目途に改修をなさいという制度はないのか。</p> <p>→(答) 国の方からはない。出来上がった計画を基に財政状況を勘案しながら優先度を決めていく。</p> <p>(問) 国としては、補助事業の実質経費のどれくらいを補助するのか。</p> <p>→(答) 3分の1で、実際はもう少し低くなる。</p> <p>(問) 年数がたてばたつほど維持管理費は高くつくと思うので、なるべく早く手を打たないと2倍も3倍も金がかかるのではないか。それらを今後どのように利用するか。</p> <p>→(答) 県教委と語る会で国は3分の1補助するというが、それのもとになる単価があまりにも低くて、実際に係る金額との乖離が大きくて非常に困っている。実態に合うように見直してくれと要望をしようということになった。</p>

自己点検評価シート

事務事業名	教育用コンピューター導入事業		担当課	学校教育課	
事業概要	対象	(1) 児童・生徒 (2) 教職員			
	手段	市内小中学校のコンピューター(教育用・校務用)整備			
	意図	(1) 情報教育の充実 (2) 校務の効率向上			
令和元年度事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・センターサーバー化を行うための契約事務を行う。 ・平成28年度及び平成30年度リース契約分コンピューターに係る管理事務を行う。 ・学校HP用のレンタルサーバーに係る使用料を支出する。 ・各校の既存ICT機器の修繕及び廃棄を計画的に行う。 				
事業費	令和元年度決算額	14,781千円	令和2年度予算額	23,460千円	
評価指標			目標値	実績値	達成率
	教育用パソコンの導入・更新数		0	0	0%
	校務用パソコンの導入・更新数		0	0	0%
	校務の効率化が向上した学校数		11	11	100%
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・セキュリティの向上や各学校間のネットワークを構築するために庁舎内にセンターサーバーを設置する。また、全学校に校務支援システムを導入する。 ・既存のパソコン等の修繕及び廃棄を行う。 				
成果	令和元年度は庁舎内に学校センターサーバーを設置し、市内全小・中学校に校務支援システム(情報共有システムミライム)の導入を行った。これにより、各学校間のネットワークが構築され、校内外での教職員間の情報共有が可能となった。また、市内大規模校である榕城小学校と種子島中学校に統合型校務支援システム(スズキ校務)を導入し、事務処理の効率化に向けて基盤を築くことができた。				
課題	各校務支援システムの規定や管理について整備する必要がある。また、GIGAスクール構想の実現に向けて、教育用PC児童生徒一人一台の導入が急務である。				
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・教育用PC児童生徒一人一台の計画的な導入を実施する。 ・テレビ会議システムの導入を実施する。 				
評価 ○…妥当、適切 △…一部見直しが必要 ×…全面的な見直しが必要	妥当性	<input type="radio"/> 現状の課題の解決手段になっているか			
		<input type="radio"/> 市が行うべき仕事か			
		<input type="radio"/> 正しい成果認識による成果の把握ができていないか			
	有効性	<input type="radio"/> 成果の向上余地はあるか			
		<input type="radio"/> 類似の事業が他にないか			
	効率性	<input type="radio"/> 市民や事業所との役割分担は適切に認識されているか			
		<input type="radio"/> 成果を落とさずに事業費を削減する方法はないか			
	公平性	<input type="radio"/> 業務のやり方を工夫して業務時間を削減できないか			
<input type="radio"/> 同じ条件をもった市民や団体が公平に扱われているか					
総合評価 (欄外参照)	A	センターサーバー化と校務支援システムの導入により、教員の業務改善を支援する環境づくりを推進することができた。併せて、令和2年度はタブレット型端末導入校への導入やテレビ会議システムの全小学校への配置を予算化することができた。国のGIGAスクール構想の動向も踏まえながら更なる環境整備を推進するとともに、教員と児童生徒のICT活用能力の向上のための取組も、鹿児島大学との連携の更なる充実を図りながら進めたい。			

総合評価について

- A 計画どおりに事業が進展している。または、事業内容が概ね適切な事業。
- B 課題があり、事業の進め方や事業費等に一部見直しが必要な事業。
- C 課題が多く、事業内容や事業規模、実施主体の見直しが必要な事業。
- D 事業の統合・休止を検討する事業。または、課題が多く、抜本的な見直しが必要な事業。

意見・要望等

<p>外部評価委員の意見</p>	<p>(問) GIGAスクール構想というのがあるが、学校の先生方で管理職を含めてGIGAスクールという言葉をどの程度把握しているか。 →(答) 管理職については校長会や教頭会で確実に伝えている。マスコミや新聞等の報道でもあり認知度は高いと考えられる。学校の先生についても、一人一台端末が導入されることは理解していると思う。 (問) 先ほどの説明で1200台の導入ということは児童生徒に一台ずつわたるということですか。 →(答) 現在約1180名の児童生徒がいる。予備も含めて約1200台導入できる。 (問) パソコンを使う授業はどういう形でやるのか。 →(答) タブレットにキーボードが付いている形である。今タブレットが入っている学校では、例えば理科の観察とか体育の実技で動画を自分で見直して記録したりとか、調べ学習で活用している。今年度中に全ての学校でインターネットがつながる環境が整い、新しい教科書にはQRコードが付いており、それをタブレットで読み取るいろいろな動画とか地図とか資料が出てくるようになっている。今度導入する端末には自分で学習できるデジタル的な学習ソフトを入れることも考えている。 (問) 全ての教科で使えるということか。 →(答) 一人一台なのでいつでも使える。使った後は、キャビネットに入れて充電し、いつでも使えるようにする。 (問) 基本は教科書とノートはそのまま、充実させるための情報を持つということでタブレットが出てくるということか。 →(答) 学習を充実させるため、また機器の活用能力を高めるため、キーボードが使える機種を揃えていく。 (問) WiFiの環境はどういうふうになっているのか。 →(答) 昨年度の3月補正で校内LAN整備をし、今年度中に全ての教室でWiFiが使える環境を作る。</p>
<p>教育委員の意見</p>	<p>(問) 機器・システムをどれだけ使いこなすか。教員の資質の問題である。現時点では、堪能な先生がどれくらいいて、完全に使いこなせる状況にあるのか。 →(答) 昨年度からICT活用の研修会を鹿大の先生と連携して行っている。各校一人ずつは中心となって推進する方がいる状況である。ただし人の入れ替わりはあるので、今後もそういう体制づくりを進めていかなければならない。今年度の研修会は、テレビ会議システムを活用したことで60名を超える先生が参加した。一人でも多くの方が参加できる研修の機会を増やしていく。 (意見) リモート会議をよくするが、商工会では韓国とやりとりをやっている。先日は石川県小松市の商店街のリモートツアーというのに参加したのだが、今後の可能性について感じた。昨日は、嵐のコンサートがリモートであった。タブレットを使うことで、オリンピック選手が実際講義をしたりとか、修学旅行の前に事前に視察ができたりすることも今後可能になってくるのではないか。 (問) パソコンの保管場所を教えてください。 →(答) 各校のスペース次第だが教室・廊下等に設置したキャビネットに使い終わったら入れて、夜間の電力で充電される。それを取り出して自分の机で使う。 (問) 種子島の子どもたちから発信することが期待される。そこら辺も楽しみで、世界に繋がっているということで「種子島で勉強しませんか」ということも発信できる。種子島に実際来られた方からも発信できる。 →(答) タブレットだけでなく様々な教育用ソフトが入る。いろいろなところと繋いで、こちらからも発信しやすくなるソフトが入っているので、テレビ会議システムと同じく、総合的学習等の成果の発信を進めていこうと思う。 (問) これにたけた会社が来て子どもたちに勉強させるのか。 →(答) 端末のメーカーが来て導入研修会はあるが、子供たちの学習機会という点では確かに手が届いてなかったもので、そういうのもできないか探していきたい。</p>

自己点検評価シート

事務事業名	高齢者学級開設事業		担当課	社会教育課	
事業概要	対象	60歳以上の市民			
	手段	学習会(高齢者学級・寿大学)を毎月1回開催する。			
	意図	生涯学習を継続し、学級生相互の親睦と融和を図る。			
令和元年度事業内容	市内3地区(立山・下西・古田)に、高齢者学級を設置して、毎月各1回の学級で、健康保健、介護、生活相談、防災、交通ルール、島内研修、奉仕活動などに関する学習を実施し、高齢者相互の親睦と融和を目的としている。また、中央学級として、月に1回寿大学を開設し、講演(人権、交通安全、歴史等)やクラブ活動(園芸、ダンス、体育等)を実施している。 年間計画の作成、講師依頼、開講式の実施、学級の進行、修了証の作成、閉講式				
事業費	令和元年度決算額	1,338千円	令和2年度予算額	31千円	
評価指標			目標値	実績値	達成率
	高齢者学級・寿大学の参加人数(人)		1600	1560	98%
取組内容	全国的な高齢化傾向に対応し、社会教育指導員を配置し、高齢者学級・寿大学を開設し、学習できる機会の提供と学習成果の活用などを支援している。				
成果	高齢者学級・寿大学に参加することで、高齢者が新たな知識や精神的な豊かさを感じ、生きがいへとつながっていると感じる。				
課題	寿大学は学級生も多く在籍し、活動しているが、高齢者学級については、役員の成り手がいないため、学級が未開設の地域があったり、次年度の開設を断念する地域があったりする。指導者、後継者の育成が必要になっている。				
今後の方向性	寿大学については午前中の講演等、午後からのクラブ活動というスタイルで、学級生が常に新しい学びができるよう、運営委員と一緒にメニューを検討していく。高齢者学級は自主的に内容を検討し運営していることから、各学級がスムーズに運営できるよう、事務局で内容の検討や防災ラジオでの広報など、引き続き、運営の後方支援を行うこととする。新型コロナウイルス感染症対策にも十分留意し、安心安全に活動ができるよう随時助言を行う。				
評価 ○…妥当、適切 △…一部見直しが必要 ×…全面的な見直しが必要	妥当性	<input type="checkbox"/> 現状の課題の解決手段になっているか			
		<input type="checkbox"/> 市が行うべき仕事か			
		<input type="checkbox"/> 正しい成果認識による成果の把握ができているか			
	有効性	<input type="checkbox"/> 成果の向上余地はあるか			
		<input type="checkbox"/> 類似の事業が他にないか			
		<input type="checkbox"/> 市民や事業所との役割分担は適切に認識されているか			
	効率性	<input type="checkbox"/> 成果を落とさずに事業費を削減する方法はないか			
		<input type="checkbox"/> 業務のやり方を工夫して業務時間を削減できないか			
公平性	<input type="checkbox"/> 同じ条件をもった市民や団体が公平に扱われているか				
	<input type="checkbox"/> 受益者負担は適正に設定されているか				
総合評価 (欄外参照)	A	高齢者の集いの場を提供するとともに、興味のあるクラブ活動等を通して、無理なく楽しく生きがいをもって学ぶことができるよう環境を整えている。年間計画の内容がマンネリ化しないよう、新たな学びも取り入れていきたい。			

- 総合評価について
- A 計画どおりに事業が進展している。または、事業内容が概ね適切な事業。
 - B 課題があり、事業の進め方や事業費等に一部見直しが必要な事業。
 - C 課題が多く、事業内容や事業規模、実施主体の見直しが必要な事業。
 - D 事業の統合・休止を検討する事業。または、課題が多く、抜本的な見直しが必要な事業。

意見・要望等

<p style="text-align: center;">外部評価委員の意見</p>	<p>(問) 市内の3地区(立山、下西、古田)で高齢者学級ということだが、その他の地区は指導者とか後継者がいないということか。 →(答) 今のところ自分たちのところに作りたいという話がないので、リーダー的な方がいないのでないか。そういったところを育成できればと思っている。 (問) 榕城中目などの老人クラブのような団体は入らないのか。 →(答) それは介護予防の関係なので高齢者自身が世話人になるのではなく、比較的若い方が世話人になってやっているところが多い。生きがいつくりや知的好奇心を満足させるというところでは目的は共通しているので、一緒にやっていけたらと思うところである。 (問) 東町でも元気アップ体操を週に1回やっている。ほとんど高齢者が集まってやっているのだが、そういうのと一緒にするのとか、時間を延長してやるのとか、そういうのは考えていないか。 →(答) 古田校区は同じ日にやっている。体操をしてから高齢者学級に入っていない方は、帰っていく。そこが残れば会員が増えるので、高齢者支援課とも話をしながら多く参加してもらおうような方策をとっていくべきかなと思う。 (問) 来る人は同じ人だと思ふ。一緒にできればいいかなと思ふ。 →(答) 高齢者学級も元気アップのシールの対象になっているので、宣伝していくと参加する人が増えていくのかなと思ふ。</p>
<p style="text-align: center;">教育委員の意見</p>	<p>(問) 高齢者学級が3教室あるようだが、他のところから学級を開設したいということで、社会教育課としてはどのような支援をしてくれるのか。 →(答) 広報活動や学級のメニューづくりがまず出てくる。開設しているところのメニューの提示とか、広報の手伝いができる。 (問) 行って講演をしてあげるとか、会の進行をするとか具体的な支援、補助とかどうなっているか。 →(答) 教室のある日は、担当が行って進行をしている。また外部講師を招聘してその謝金を市で支払っている。 (問) 各大字から要望があれば、いくつでも受けて支援できる体制はあるのか。 →(答) 社会教育指導員がいるので、その人を中心にしてできる体制はある。 (問) 自分の地域も計画を立て目的に沿ってやっている。市内にはそういった似通ったものがあると思う。社会教育課が目指すような活動はしていると思うが、要望したら既存のものに支援はできないのか。 →(答) 老人クラブや高齢者サロンは高齢者支援課が持っていて、その部分で手伝いをするようになっている。 (問) 違いはどこにあるのか。 →(答) 高齢者学級は生涯学習で学びの部分、老人クラブは地域貢献で昔からある年齢集団としての役割、高齢者サロンは介護予防、目的は違うが似通っているのが現状である。 一緒にやって人数を増やす方策ができないか考えている。 (意見) 社会教育課だから生涯学習にちなんだ学習形態だと思うが、めざすところは健康づくり生きがいつくり、市そのものの考えだと思う。できるのなら支援をもらえれば助かる。 (問) 3つの団体は役員が違うのか。 →(答) 高齢者学級はリーダーが連絡係となっている。 高齢者サロンは手伝う方が集落支援員とか若い方である。そういった方たちが計画をして呼びかけをしている。老人クラブは役員がまわってくるということで年々減っている。 (問) 高齢者に限らず、どの地域も役員のなり手がいない。リーダーの育成についてどういうテコ入れをしているのか聞きたい。 →(答) なかなか強制できない。負担がかからないような、後方支援という形で方策を考えなければと思う。 (問) 教育委員会は、生涯学習、幼児から高齢者まで学び続けるという体制のウエイトを持った方がよいのではないか。 →(答) 生涯教育という立場でぶれないようにやっていく。</p>

自己点検評価シート

事務事業名	ふるさと歴史散歩看板整備事業			担当課	社会教育課
事業概要	対象	文化財・市民・観光客			
	手段	市内に残る名所や旧跡、伝承、伝説などを説明する「ふるさと歴史散歩看板」を、その所在地に設置する。木製看板を、アルミ複合板の看板に更新する。			
	意図	①身近にある文化財や歴史を伝え、郷土への関心や愛着を高める ②観光ツールとしての活用 ③木製看板の更新(安全対策)			
令和元年度事業内容	①既存看板の状態確認 ②製作看板(更新・新規)の選定 ③看板原稿の作成		④看板製作業務委託契約 ⑤設置済看板の検査 ⑥多言語化検討		
事業費	令和元年度決算額	2,188千円	令和2年度予算額	2,881千円	
評価指標			目標値	実績値	達成率
	看板設置数(基)		34	35	103%
取組内容	【看板仕様】(看板)縦40cm×横45cm×厚さ3mm (ポール)直径5cm×高さ180cm 【設置箇所】榕城校区30か所 下西校区2か所 住吉校区2か所 計34か所 ※別途、ふるさと歴史散歩「歌」看板を、雲之城基地に1か所設置。				
成果	劣化しつつある木製看板を、35基更新設置することができた。 教育・観光ツールとしての充実を図ることができた。				
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・看板設置箇所の土地所有者の理解・同意、設置後の管理体制 ・更新作業の長期化 ・看板の活用、啓発活動 ・多言語化 				
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・木製看板すべての更新(残り約160基) ・看板を活用した取組の充実(まち歩き講座、学校教育での活用、観光連携など) 				
評価 ○…妥当、適切 △…一部見直しが必要 ×…全面的な見直しが必要	妥当性	<input type="radio"/>	現状の課題の解決手段になっているか		
		<input type="radio"/>	市が行うべき仕事か		
		<input type="radio"/>	正しい成果認識による成果の把握ができていないか		
	有効性	<input type="radio"/>	成果の向上余地はあるか		
		<input type="radio"/>	類似の事業が他にないか		
	効率性	<input type="radio"/>	市民や事業所との役割分担は適切に認識されているか		
		<input type="radio"/>	成果を落とさずに事業費を削減する方法はないか		
	公平性	<input type="radio"/>	業務のやり方を工夫して業務時間を削減できないか		
		<input type="radio"/>	同じ条件をもった市民や団体が公平に扱われているか		
<input type="radio"/>	受益者負担は適正に設定されているか				
総合評価 (欄外参照)	A	当初予定していた34基に加え、市民から要望のあった看板1基についても更新することができた。残る木製看板についても、経年劣化や台風等の被害状況を日々把握しながら、計画的に更新作業を進めていきたい。 設置看板の普及啓発については、教育・観光ツールとしての活用を更に推進すべく、多言語化の検討もふまえ、今後も可能性を広げていきたい。			

総合評価について

- A 計画どおりに事業が進展している。または、事業内容が概ね適切な事業。
- B 課題があり、事業の進め方や事業費等に一部見直しが必要な事業。
- C 課題が多く、事業内容や事業規模、実施主体の見直しが必要な事業。
- D 事業の統合・休止を検討する事業。または、課題が多く、抜本的な見直しが必要な事業。

意見・要望等

<p style="text-align: center;">外部評価委員の意見</p>	<p>(問) 1基あたりの設置費用はいくらか。 →(答) 昨年度は、1基あたり3万円の消費税。事業費には人件費も入っている。 (意見) 夏休みの間に栖林神社に行った時に子供に説明をしながら回られているのを見かけたもので、すごくいい取り組みだとみているところだった。</p>
<p style="text-align: center;">教育委員の意見</p>	<p>(問) 看板設置箇所の土地所有者の理解・同意がうまくいっているようだが、具体的にどのようにされているのか。地主・市民からの要望とか指摘等はこれまでなかったか。木製看板でどれくらいもつか。アルミ複合板ではどれくらいか。 →(答) 木製看板を立てた時に、畑とか道沿いが多い。土地所有者を探して直接話して、許可をもらう。経費的なものを請求されたこともないし、協力的なケースが多い。代替わりしたときに看板がなくなっていたことがあった。きちんとした説明が必要である。誰の土地かわからないところは、集落長に相談している。市街地はコンクリートの部分が多くて、苦慮する。台風で折れたり、文字がかすれたり、木製はもっても2～3年が限界。アルミ合板は最低10年は大丈夫。シールを貼っているのでこの部分だけを張り替えられる。 (問) 難しい漢字にはフリガナをふっているか。文字の大きさは決まっているのか。 →(答) ふっている。読みやすい大きさにし、火縄銃兵衛のイラストも入れてる。中身の原稿自体も見直しをしている。 (問) ポケット学芸員を詳しく教えてほしい。 →(答) スマートフォンにアプリを入れて、日本全国の博物館で使用しているところが出てくるので、そこから鉄砲館を選ぶ。中身は収蔵品を管理している台帳があるが、そこにデータを入力しておけば、連動して引っ張ってくる操作になる。そこに登録をしている日本語、英語、中国語の音声聞けるというシステムである。今鉄砲館の中だけでスタートしており、看板にQRコードを設置し、活用できないか検討している。 (問) 何人が鉄砲館を閲覧したかわかるのか。 →(答) わからない。鹿児島ではこれを使っているのが黎明館、県立博物館などである。このアプリの会社の収蔵資料のデータの毎月使用料が発生する。自分たちで原稿を作らなければならない。 (問) 鉄砲館はどれくらい入っているのか。 →(答) 27の資料を解説しています。 (問) 市政の窓で紹介したらどうか。 →(答) 宣伝したい。 (問) 残り160基あるのだが、30基ずつだったら5年かかるので、いっぺんにできないのか。 →(答) 一気にすると相当な業務量になる。年数はかかってもきちんと精度の高いものを作っていきたい。2年でさせてくれとしてたのだが、財政と話をして毎年これぐらいでとのことだった。</p>